



ハチドリはどうやって^{たまご}卵を^{あたた}温めるの

メスが^{すづく}巣作り、^{こそだ}子育てをする

ハチドリは、枝の上に植物の繊維や綿毛、コケなどで巣を作ります。大きさは、直径5～6センチメートルのおわん形です。卵はふつう2個、まれに1個産みます。卵をだく期間は14～19日で、巣を作ったり、卵をだいたり、ひなを育てる作業をするのは、メスだけです。オスは、なわばりを守るのが、おもな仕事になります。

ハチドリの生活

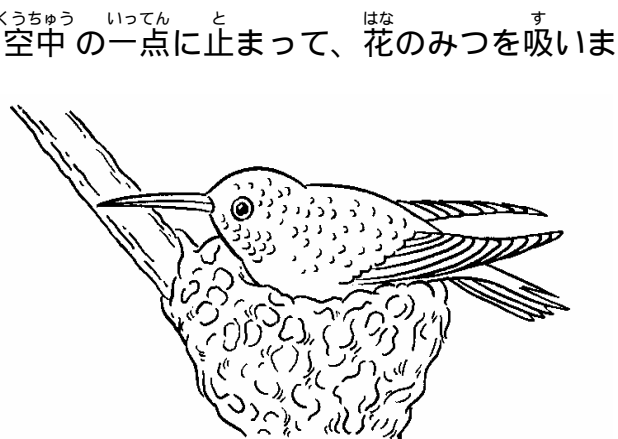
ハチドリの仲間は、南北アメリカ大陸や西インド諸島にすんでいます。北のアラスカにもいますが、ほとんどの種類は、中南米の森林にすんでいます。

ハチドリの仲間は約350種類ほどいて、いちばん小さい鳥の種類として有名です。最小のマメハチドリは、くちばしとおをはぶいた全長が、たった2.5センチメートルしかありません。

ハチドリは、すごい速さではばたきながら、空中の一点に止まって、花のみつを吸います。このときにたてる羽音が、ハチの羽音に似ているところから、ハチドリという名がつけられています。この羽ばたきの回数は、1秒間に70～80回にもなります。

ハチドリは、花のみつのほか、花に集まるクモなどの、小さい昆虫も食べます。あまい果物や、樹液も吸います。

(監修・今泉 忠明)



ハチドリの巣

